

市内在勤・在住女性とのワークショップの概要について

1 ワークショップの目的

本市が若い女性に選ばれる魅力的なまちづくりの推進に向けて、若い女性にとって魅力的な取組やヒントを導き出すため、ターゲットとすべき若い女性と同世代である市内在住・在勤の若い女性とのワークショップを実施するもの。

2 ワークショップの対象者

市内在住・在勤の女性 10 名

丹波市丹（まごころ）の里創生総合戦略推進委員会 2 名

計 12 名

3 ワークショップの進め方

（1）テーマ

わたしの視点でつくる丹波市の未来～女性の感性が光るまちづくり～

（2）課題の共有

若い女性の進学等に伴う転出超過数に対して、就職期に係る転入超過数の割合（以下「回復率」という。）が2％に留まっており、男性の回復率40％と比較して著しく低くなっている。本市としても、この隔たりは危機的な状況と考えており、若い女性にとって魅力的なまちづくりを目指す必要があることを共有し、ワークショップを実施した。

（3）ワークショップの成果

ワークショップでは、3つのグループに分かれてグループワークを実施。そのなかで、若い女性にとって魅力的な取組やヒントについて意見交換いただき、ワークシートを作成いただいた。

ワークシートの作成にあたっては、①丹波市から転出する人を減らす取組/丹波市へ転入を増やす取組の検討と、その取組が②丹波市だから可能な取組なのか/広く女性に好まれる取組なのかを協議いただくとともに、検討した背景や理由を意識するため、グルーピングを行い、とりまとめた結果について発表を行った。



4 ワークシートの概要

各グループから発表された方向性や取組内容の趣旨等について、次のとおりまとめることとする。

【グループ1】

(1) 若い女性の具体化

- ・ターゲットである若い女性は、どのような人物（年齢や年代）を指すのか。
市でまとめた取組には、性別や年齢等に起因しない内容が含まれており、より厳密に人物を特定できれば、ワークショップが進めやすいと感じた。

(2) 丹波市にやりたい仕事がある

- ・行政等からの支援は必要であるものの、自分がやりたい仕事や自身のスキルを活かせる仕事があるか、また、対価としての給与が適切な金額でないと住む場所としては選ばない。仕事があることを前提に、休暇が取得しやすいことや家族ファーストなどの付随する取組を考えることができる。

(3) 丹波市の住みやすさ

- ・仕事があれば、丹波市は一定の住みやすさはあると感じており、その点を推してもよいのではという意見もあった。仕事をされる方の属性を考えた場合、暮らしやすさを向上させるために、活字の図書をすぐに購入できるといった文化的な活動に寄与する取組は重要である。
- ・出生数を増やすために、出会いの場を創出することは重要であるものの、市が実施するイベントは堅苦しくなりがちである。そのため、民間事業者が実施する出会い支援に対する助成を行う方が効果的である。

《その他、グルーピングされた取組》

- ・市外在住者が丹波市と居住地との往来可能な二地域居住の推進
- ・長期休暇を活用し、市外の小学生が丹波市の魅力に触れる体験活動の推進

【グループ2】

(1) 助成制度の充実

- ・運転免許証の取得や車両の購入補助
- ・UIターン者への奨学金返済に対する補助
- ・水道、ガス料金などの生活費に対する補助
- ・「35歳以下の独身女性」など対象を限定した家賃補助

(2) 子育て支援の充実

- ・子育てしやすい環境を整えるため、小学校卒業までの時短勤務の期間拡充や習い事などに対するこどもの送迎支援が必要である。

(3) 交流の充実（注力して議論した内容）

- ・丹波市出身の同世代は、都心部に転出しており、普段は事業所の従業員との

交流に留まっている。若い女性のなかには、婚活としての出会いの場ではなく（地域の方に婚活イベントに参加していることを知られたくない）、20-30代の同姓が集まるイベントやサークルを希望する方もおられるため、きっかけづくりが必要である。結果として、交流が広がることで出会いの支援にもつながる。

《その他、グルーピングされた取組》

- ・市外在住者のための住宅の購入補助
- ・児童・生徒のための塾や部活動の送迎支援
- ・子育て世帯のための習い事への助成など格差是正に向けた取組
- ・子育て世帯のためのアフタースクールや高等学校での昼食の提供
- ・妊娠・出産を希望する人のための妊活支援や経済的支援の取組
- ・出産後の復職や女性支援に係る認定制度を有するなど、女性が活躍できる環境整備
- ・休暇制度が充実している又はフレックスタイムや時短勤務の導入など、時間に捉われない働き方の推進

【グループ3】

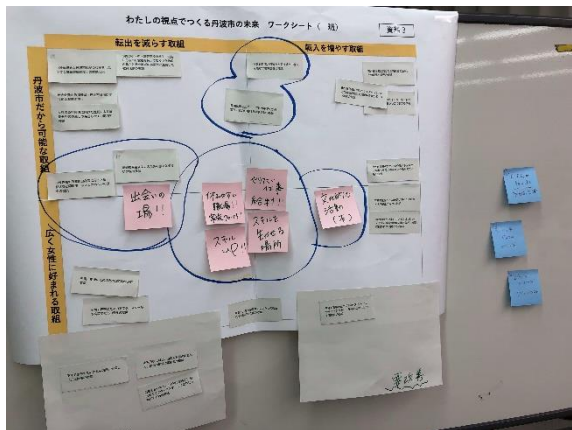
（1）広報力の強化

- ・子育て支援の観点から、転入を増やす取組の検討を行ったが、丹波市の魅力があまり思いつかなかった。
- ・親の視点としては、発熱した場合に預けられる施設がない。
- ・帰ってきてもらうために、中高生に丹波市の魅力を実感・刷り込むことが重要である。例えば、市役所が子連れ出勤するなどモデルケースを形成するとともに、それをSNSで発信し（こどもは活字の媒体に見ない）、中高生が丹波市の魅力（子育てしやすいまちであるなど）に触れることが重要である。現状では、広報が効果的に発信できているとは感じていない。
- ・丹波市にどんな企業があるか、どのような事業を実施しているかなど触れることがないため、もっと広報力を高める必要がある。
- ・里帰り出産の方はよいが、市内在住者は、妊産婦タクシー券を使用しない方もおられるため、別の形の支援が必要である（より効果的な公費の使い方の検討）。

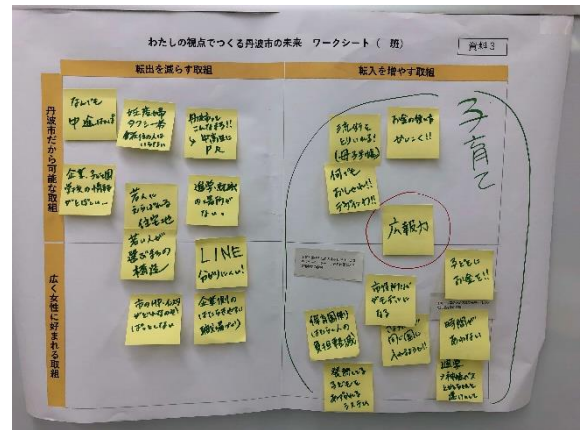
《その他、グルーピングされた取組》

- ・女性に好まれる流行を取り入れたデザイン性の高い配布物等の作成（例：母子手帳など）
- ・市バスと連携した通学手段の確保
- ・市の公式インスタやラインが分かりにくく、中高生に伝わる広報の検討

【グループ 1】



【グループ 3】



【グループ 2】

